

# 知識探訪

## 多民族社会の横顔を読む 協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

### アラビア半島と東南アジアの人的つながり

#### 宗教教育が結ぶ二つの地域：新井和広（慶應義塾大学商学部准教授）

14 年ぶりにインドネシアでまとまった期間調査することができた。私が今まで注目してきたのは、東南アジアと中東間の人の交流、特に南アラビアのハドラマウト地方（現イエメン共和国）からマレーシア、インドネシア、シンガポールなどに移民したアラブの歴史である。移民自体は 20 世紀中頃に終わったが、現在でも両地域間の人々の移動は続いている。その多くは親類の訪問だが、1990 年代以降は宗教教育を介した新たな形でのつながりが目立ってきた。今回の滞在では、特にその思いを強くした。

ハドラマウト地方には留学生を受け入れている宗教教育機関が複数あり、特に内陸部のタリムという町ではダールル・ムスタファー（預言者の家）、リバート・タリム、アハカーフ大学シャリーア（イスラーム法）学部の 3 つの機関が集まっている。留学生とは言っても、その多くはマレーシア、シンガポール、インドネシアから来ているので、町を歩いていると見慣れた顔つきの若者たちによく出会う。最近ではイエメンの治安が急激に悪化しているため、勉学の途中で帰国する学生もいるが、ハドラマウト地方の治安はまだ安定しているという（筆者は 2009 年以降治安の問題からこの地域を訪れることができないため、雑誌記事や知人からの情報ではあるが）。

これらの学校を卒業した人々は、帰国後自前の勉強会を開いたり、地元の宗教学校で教鞭をとったりしている。そしてハドラマウトの教師が東南アジアを訪れる際には受け入れや各地での活動の手配をする。特に預言者が誕生したイスラーム暦 3 月前後には、イスラーム世界各地で盛大に預言者生誕祭が行われるので、ハドラマウトの宗教教師や名士の訪問が相次ぐ。

ハドラマウトからの招待客は、預言者生誕祭や聖者祭での祈禱を主導したり、演説を行ったりする。演説はアラビア語なので、元の弟子が現地語、つまりインドネシア語やマレーシア語へ翻訳する。演説の内容は、預言者や聖者の人生を振り返り、参加者に正しいムスリムとしてそれらの人物を手本に行動すべきこと等、道徳的なものである。また、筆者が観察する限り、演説者が喫煙の禁止を訴えることもよくあった。逆に言えば、思想的に深い内容を話すわけではない。参加者の大多数は専門的な宗教教育を受けたわけではない地元の人々なので、演説もそれに合わせた内容なのだろう。ハドラマウトから招待されたのが有名な宗教者の場合、これらの行事のほかに、地元の宗教教師との対話集いやセミナーも開催される。そこで感銘を受けた教師が自分の弟子をハドラマウトに送ると、その弟子がまた東南アジアに帰ってきて宗教学校で教えるという、自律的

なルーチンが出来上がっていると筆者は考えている。

これらの活動が最も盛んに行われているのはインドネシア、特にジャワ島なので、マレーシアを含むその他の地域ではまだそんなに知られていないかもしれない。しかし、近年ではマレーシアでも預言者生誕祭や他の宗教行事におけるアラブの活動が盛んになってきているとのことなので、そのうち街で看板などを目にするようになるかもしれない。

東南アジアから中東への留学生と言うと、とかく過激な思想に影響を受けて帰ってくるというイメージがある。しかし、ハドラマウトでは、預言者や聖者の生誕祭を開催したり、先祖の墓参に重点を置いたりするなど、東南アジアでの信仰実践と親和的で、かついわゆる急進派から批判されている内容の教育が行われている。両地域のつながりが新たな形で盛んになっている理由は、そんなところにもあるのだろう。



説教するウラマーと通訳（弟子）、ジャカルタにて

#### < 筆者紹介 >

1968 年埼玉県生まれ。ミシガン大学近東研究学科博士課程修了。Ph.D.（近東研究）。専門はインド洋におけるアラブ移民の歴史。特に預言者ムハンマドの子孫と言われるサイドの動向について研究している。著書に『“断”と“続”の中東 非境界的世界を遊ぶ』（堀内正樹編著）など。日本マレーシア学会（JAMS）運営委員。